

池田の魅力発見、発信フリーペーパー「いけだいろ」事業

取組に至る背景・事業の目的

池田町に暮らす人々が、町のことや町で活動している人、様々なイベントのことを表面的にしか知らない現状や、もともと住んでいる人と移住してきた人との間に見えない壁があり、お互いがお互いのことを理解できていないこと、また町を良くしようと活動する団体が多くある一方で、それらに横のつながりが無く協働の町づくりができていないこと等を問題だと感じていた。

学生という立場から地元を活性化したいという思いで団体を設立し、平成 27 年 6 月から活動の一つとして池田町の魅力発見、発信フリーペーパー「いけだいろ」の発行を開始した。若者の視点で池田町の魅力を発見し発信することで、様々な世代や立場の人をつなぎ、池田町の活性化に寄与する。

事業内容

- 池田町と周辺市町村をフィールドに、フリーペーパー「いけだいろ」を作成し、平成 28 年 6 月、9 月、12 月、平成 29 年 3 月の 4 回発行を行った。
- 6 月発行の 6 号では、特集で山村地域を取り上げた。「限界集落か夢の郷か」というセンセーショナルな見出しで現実を掘り下げ、住民の本音を掲載した記事が話題を呼んだ。
- 7 号では「これからの農業」と銘打って 4 名の若手農業者に取材を実施。初の 1 ページ全面広告も掲載した。
- 8 号では寺の特集を展開。池田にある 3 つの寺にフォーカスし、寺の新たなあり方や考え方を広めた。
- 9 号では、池田町長、副町長への取材を実施。行政発行の媒体には載らないパーソナルな意見を引き出すことに成功した。



【池田町長への取材の様子】

事業効果

- 支援金を活用することで発行部数が 500 部から 1,500 部となり、設置先も町内 30 か所、町外は近隣市町村の図書館や飲食店、県外のフリーペーパー専門書店等 15 か所となり、以前より 10 か所以上増加した。県外からの問合せも増え、池田町の新たな魅力を町内外に発信することができた。
- 取材活動を通じて町内の若者交流団体とつながりができたほか、町外の各種団体ともつながりを深め、地域を超えてイベントなどを実施することができた。
- 活動の場が広がったことで、池田町の魅力をより様々な視点から発信することができるようになった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

平成 28 年度にスタートした広告制度や 9 号でスタートしたサポーター制度の充実を図る。

「コンテンツも金銭面も地域で生み出す」をテーマに、継続的に発行できる基盤を整え、来年か再来年には自主財源で運営できるよう努める。また、法人格の取得や取材エリアの拡張なども検討していく。

【選定のポイント】

山間地域で暮らす人々や町長・副町長に対する若者視点によるインタビューが記事に活かされ、読む人に新鮮な印象を与え、話題を呼んだ。配置先も町内外の 45 か所に増え、県外からの問合せも増えるなど池田町の情報発信のツールの一つとなっている。今後も池田町の魅力が発信されるだけでなく、地域住民が池田町の魅力に気付き、地元への愛着が深まることが期待できる。

また、地域の人々が取材や編集に参加するなど、地域住民を巻き込んだ新たな展開や、関わりのある他の地域団体の活性化も期待できる。

団体名	信州池田活性化プロジェクト 「Maple Tree」(池田町)	事業タイプ	ソフト事業
ホームページ	https://ikeda-mapletree.jimdo.com	事業費	465,122円
		支援金額	300,000円